

2020
秀作

第53回「おかねの作文」コンクール

時間とお金の使い方

栃木県・下野市立南河内第二中学校 2年 谷田貝 美桜

中学校に入学し、私はカルチャーショックを受けた。自分には無縁すぎて、小学生の時は気にもしていなかった。それは、クラスのほぼ全員が飛行機に乗った事があるという事だった。夏休みには毎年必ず海外旅行に行くという子や、以前海外に住んでいたという子。私は、そんな友達に囲まれていた。

言いにくい事だが、私は日本から出たことが無い。それどころか、一度も飛行機に乗った事が無い。言い訳になるが、私の両親は共働きで、会社員だ。夏休みと言ったら、お盆休み程度。しかし、お盆は毎年先祖のお墓参りに行き、理科研究をやるのが日課だ。年末年始はというと、祖母の家で餅つきやお節作りをして、新年を迎える準備をする。これが、我が家の恒例の過ごし方なのだ。「うちも連休にハワイやグアムに旅行しようよ。みんな行ってるんだよ。」

昨年、私はこうやって夕食時に旅行の話を持ち掛けた。

「行きたいよね。でも、お盆もお正月も家を空けられないし、春休みは仕事が一番忙しい時期なのよ。」

母は、そう言って食事を続けた。だったら、いつなら行けるのか。私は、尋ねる気にもならなかった。

「もういいっ！ケチ！」

もはや、私には言い訳にしか聞こえなかった。母は、連れて行く気なんてきつとないに違いない。私は、その場を去り、部屋にこもった。

数日後、塾に送ってもらう車の中で父が私にこう言った。

「この前の話だけど、父さんもママと同じ気持ちだ。連休はお前たちの予定もいっぱいだから、計画を立てないとな。これだけは言うておくけど、ママはケチではないぞ。」

確かにそうだ。振り返ると、母は私のやりたい事を今まで応援してくれていた。年少で初めて新体操を始めた時から、習字やスイミングにバレエ、全て母が

お金を出してくれていた。送迎等を含め、全力でサポートしてくれている。今も高額な塾の講習代も、

「美桜の^{ため}だから。頑張ってきてなよ。」

と、私の将来の為にたくさんのお金を払ってくれている。私は、両親に投資されているのだ。

「〇日間で〇円という事……1日で〇円もかかっているの？」

「塾に〇円、習字に〇円、新体操に〇円……月に全部で〇円も払っているの？」

私に投資しているお金で何回家族旅行に行けたのだろうか。私は、そんな事を考えてしまった。私は、なんて幸せ者なんだ。

小学生の頃、母の仕事がとても忙しく、母は毎日私が寝ている間に家を出ていた。帰りも遅く、夜少しの時間しか会えない日々が続いた。それでも、必ず朝食や夕食の準備をしてくれていた母には、頭が下がる思いだったが、寂しかったのが本音だ。

「毎日ごめんね。ママは、残業代よりもあなた達と過ごす時間の方が大切。お金よりも時間が欲しい。」

母は、疲れた顔でそう言った。私は、これまでの寂しさが吹っ飛んだ気がした。両親は私にお金や時間、労力を費やしてくれている。それだけでなく、祖父母や風習も大切だと考える両親を私は誇りに思う。

お金の使い方、時間の使い方。人それぞれ価値観や収入が違うように、使い方も当然違う。誰かと同じにする必要などない。お金と時間を天秤^{びん}にかけるとすれば、答えは様々、正解なんてないだろう。「時は金なり」ということわざがあるように、人生を有意義なものにするには、お金だけでなく、時間の有効活用も大切だ。だからこそ、私はどちらも大切に使いたいと思う。

私の卒業記念旅行に家族で海外に行こう。そう家族で約束をした。やっぱり、母はケチでも嘘^{うそ}つきでもない。約束の旅行までにお金を貯めておかないと。そして、旅行でかけがえのない思い出を作るのだ。

